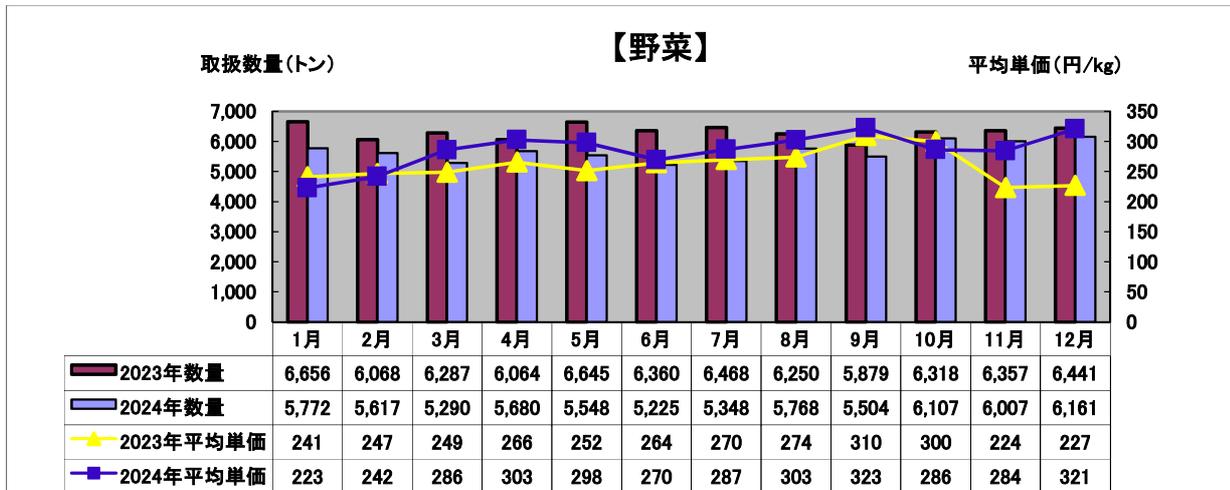
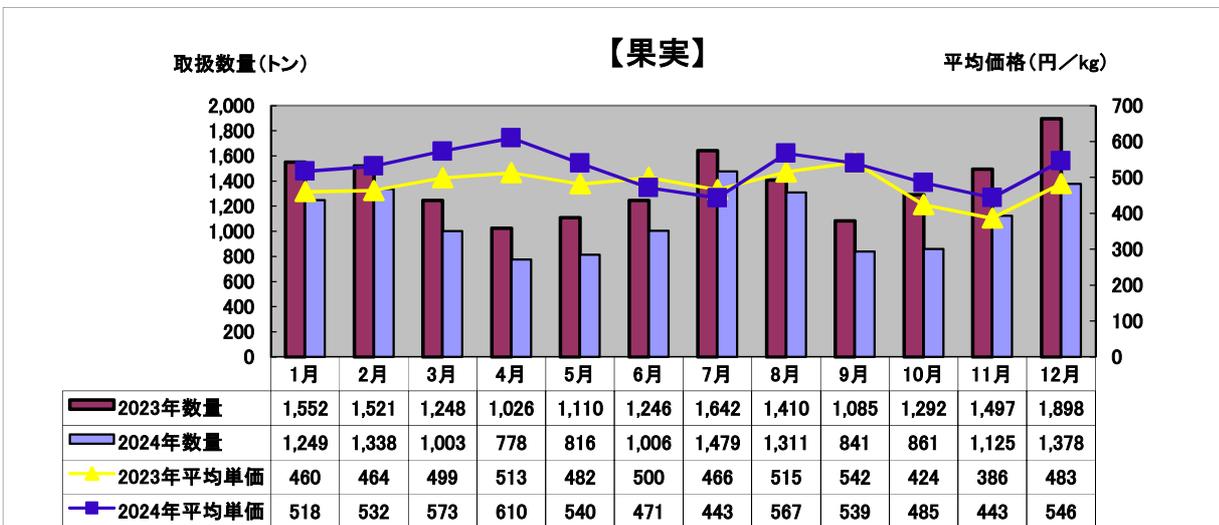


## 令和6年(2024年)12月 青果部種類別市況



12月の野菜類は、総体的に夏秋の高温、11月以降の乾燥、干ばつが野菜の生育に大きく影響した月となりました。前年に比べ数量はやや減少し、平均単価はかなり高く推移しました。

前年比数量 96%、単価 141%で終了しました。



12月の果実類は、主力のみかんやリンゴがカメムシによる被害、猛暑による生理落果の多発や生理障害果の発生により、作柄不良が目立ちました。数量はかなり減少しました。単価については高く推移しました。

前年比数量 73%、単価 113%で終了しました。